

令和8年度

秋田県公立高等学校入学者選抜
学力検査の抽出調査

〈分析と提言〉

秋田県教育委員会

刊行に当たって

秋田県教育庁高校教育課長 佐藤 嘉彦

令和8年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査が去る3月4日に実施されました。この学力検査の問題は、次の基本方針等に基づいて作成されたものです。

- 1 基本方針
中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第64号）に基づくものとする。
- 2 実施教科、検査時間及び出題内容
 - (1) 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、各教科の配点は、それぞれ100点とする。
 - (2) 各教科の検査時間は、国語、数学、外国語（英語）は各60分、社会、理科は各50分とする。なお、国語の「聞くこと」に関する検査及び英語のリスニングテストは、当該教科の検査開始と同時に10分間程度行う。また、数学では学校による問題選択制を一部取り入れる。
 - (3) 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にしかもきめ細かに把握できるように出題する。

この調査は、受検者の答案の中から8%を抽出し、教科ごとに分析したものです。入学者選抜学力検査という条件の下ではありますが、中学校における日常の学習成果及び指導上の課題を明らかにすることができたものと考えます。

教科ごとに、現状分析をするにとどまらず、授業で取り組むべきこともまとめましたので、各学校においては、学習指導計画及び学習指導方法等の改善のために、この調査を十分に活用されるよう望みます。

過去3年間の平均点の推移

年度 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計点	100点換算点
令和8年度	65.2	56.4	40.4	52.0	50.0	264.0	52.8
令和7年度	66.3	53.7	47.6	56.8	49.8	274.2	54.8
令和6年度	67.8	59.3	48.7	51.9	49.9	277.6	55.5

<参考資料>

令和8年度 学力検査合格者得点分布

総合

得点区分	(500) 499 ～475	474 ～450	449 ～425	424 ～400	399 ～375	374 ～350	349 ～325	324 ～300	299 ～275	274 ～250
比率[%]	0.0	0.5	2.5	4.4	6.9	8.2	8.2	9.0	10.7	10.1
得点区分	249 ～225	224 ～200	199 ～175	174 ～150	149 ～125	124 ～100	99 ～75	74 ～50	49 ～25	24 ～0
比率[%]	11.7	9.8	7.2	5.6	3.0	1.5	0.6	0.1	0.0	0.0

国 語

1 小問別の完全正答率と得点率

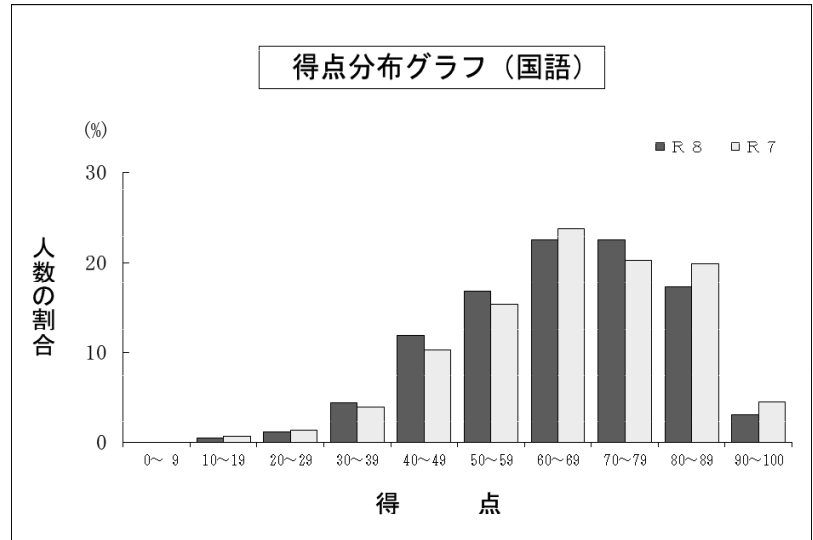
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
一	1	話合いの内容を正確に聞き取る	76.4											
	2	話合いの内容を正確に聞き取る	80.6											
	3	話合いの様子から進行の仕方を捉える	74.0											
	4	話合いの内容を正確に聞き取る	96.5											
二	1	① 配当漢字を書く	65.3											
		② 常用漢字を読む	97.6											
		③ 配当漢字を書く	67.5											
		④ 常用漢字を読む	98.9											
	2	動詞の活用の種類を書く	29.4											
	3	助動詞の意味を捉える	56.1											
	4	同じ意味の四字熟語を選ぶ	73.3											
三	1	a 本文の内容を捉える	98.0											
		b 本文の内容を捉える	95.1											
	2	段落の役割を捉える	88.3											
	3	(1) a 本文の内容を捉える	96.5											
		b 本文の内容を捉える	93.8											
	(2)	本文の内容をまとめる	51.9											
	4	本文の内容を捉える	66.7											
	5	本文の内容をまとめる	54.3											
四	1	本文の内容を捉える	94.7											
	2	本文の内容をまとめる	32.9											
	3	a 本文の内容を捉える	26.3											
		b 本文の内容を捉える	76.2											
	4	(1) 登場人物の心情を捉える	79.5											
		(2) 表現の効果を捉える	81.9											
		(3) 登場人物の心情をまとめる	18.8											
	五	1	本文の内容を捉える	41.7										
2		(1) 漢文に返り点を書き入れる	53.4											
		(2) a 本文の内容をまとめる	34.7											
			b 本文の内容をまとめる	27.6										
3		(1) 本文の内容を捉える	65.8											
		(2) 本文の内容をまとめる	10.2											
六	経験を踏まえて、自分の考えを分かりやすく書く													

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和8年度	令和7年度
90～100	3.1	4.5
80～ 89	17.2	19.9
70～ 79	22.5	20.3
60～ 69	22.5	23.8
50～ 59	16.8	15.4
40～ 49	11.9	10.3
30～ 39	4.4	3.9
20～ 29	1.1	1.3
10～ 19	0.5	0.6
0～ 9	0.0	0.0
計	100.0	100.0
平均点	65.2	66.3
標準偏差	15.7	16.0



3 現状の分析

平均点は65.2点と昨年を1.1点下回った。基礎的・基本的な知識及び技能を活用して本文の内容を的確に読み取り、自分の言葉で適切に表現できたかが得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、提案の理由や話合いの内容を正確に聞き取ることはできていたが、進行の仕方の工夫を捉えることに課題が見られる。
- ② 言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字の読み取りはできていたが、漢字の書き取りや動詞の活用の種類、助動詞の意味の識別に課題が見られる。
- ③ 説明的な文章では、段落の役割や本文の内容を捉えることはよくできていたが、本文全体の内容を踏まえて筆者の主張を読み取り、条件に応じてまとめることに課題が見られる。
- ④ 文学的な文章では、場面の展開や表現の効果を捉えることはできていたが、登場人物の言動や比喩的な表現を手掛かりに心情を想像し、自分の言葉でまとめることに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、現代語訳や資料を基に内容を理解することはできていたが、複数の情報を結び付けて筆者の心情を捉え、自分の言葉で適切に表現することに課題が見られる。
- ⑥ 作文では、これまでの体験や取り組んでみたいことを挙げながら、地域の魅力について自分の考えを表現できていた。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】

- ・段落相互の関係に着目しながら、文章の構成や論理の展開を捉え、内容についての理解を深める学習の充実を図る。
- ・叙述を根拠にして、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、複数の観点から読み取ったことを交流したりする学習の充実を図る。
- ・現代語訳や資料などを手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を捉え、興味・関心を高める学習の充実を図る。
- ・言語感覚を磨き、社会生活で使う語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 主として説明的な文章において、段落相互の関係性などを踏まえながら論理の展開について話し合うことを通して、筆者の主張を読み取る活動の充実を図りたい。
- ② 叙述に着目し、登場人物の言動や比喩的な表現などから、暗示的に表現された心情を読み取って自分の解釈をまとめたり、互いの解釈を交流したりすることを通して、文章を深く読み味わう活動の充実を図りたい。
- ③ 古典の原文に加え、現代語訳、解説した資料などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を捉え、古典に親しむ活動の充実を図りたい。
- ④ 言葉の特徴や使い方に関する知識を広げ、話や文章の中で適切に言葉を使うことができるよう、言語活動の充実を図りたい。

社 会

1 小問別の完全正答率と得点率

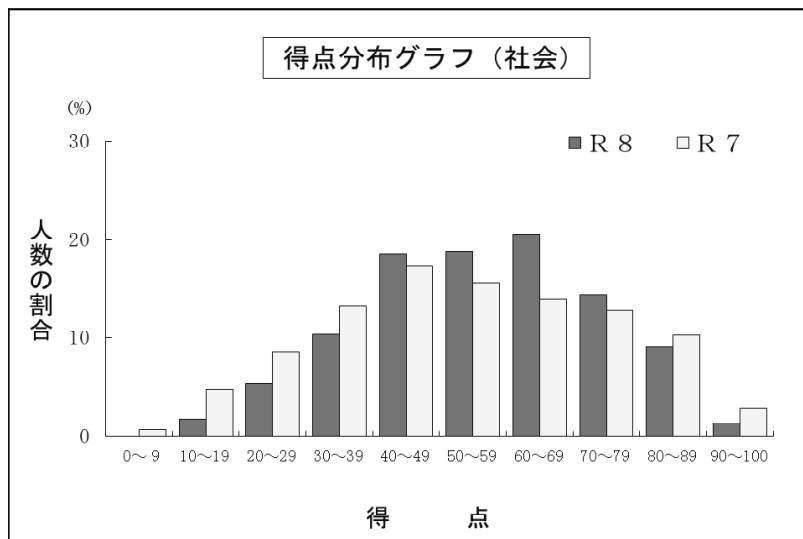
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	地図に示された緯線から赤道を選択する	80.1												
	(2)	資料を基に地図に示された都市の気温の特色を説明する	62.3												
	(3)	各州を比較する資料を基にアフリカ州を選択する	31.1												
	(4)	中国	各国を比較する資料を基に中国を選択する	50.8											
		ブラジル	各国を比較する資料を基にブラジルを選択する	65.3											
	(5)	S	資料を基にオーストラリアに関連する語を答える	89.0											
T		資料を基にオーストラリアの輸出相手先の変化を説明する	44.2												
2	(1)	資料を基に県庁所在地名を答える	49.0												
	(2)	資料から気候の特色を読み取り該当する都市を選択する	57.6												
	(3)	資料から発電の特色を読み取り該当する県を選択する	32.5												
	(4)	関東地方	各地方を比較する資料を基に関東地方を選択する	62.0											
		九州地方	各地方を比較する資料を基に九州地方を選択する	25.2											
(5)	資料を基に工場の立地の特色を説明する	46.4													
3	(1)	大化の改新より前のできごとを選択する	74.8												
	(2)	資料を基に班田取授の法を説明する	42.6												
	(3)	鎌倉時代の社会や文化について述べた文を選択する	56.5												
	(4)	鎌倉時代に制定された法令名を答える	33.1												
	(5)	資料を基に徳川家光が行った政策を選択する	47.9												
	(6)	う	資料が示す施設の名称を答える	39.7											
		え	資料が示す施設で行われたことを説明する	33.8											
	(7)	近代国家の形成に関わるできごとを順に並べ替える	17.7												
	(8)	日清戦争の講和条約が結ばれた場所を選択する	49.7												
	(9)	日露戦争の講和条約に対する国民の不満の理由を説明する	44.2												
	(10)	第一次世界大戦における我が国の動きを選択する	27.2												
	(11)	資料が出された時期を年表から選択する	64.7												
(12)	資料を基に第四次中東戦争の我が国への影響を説明する	60.7													
4	(1)	日本国憲法第25条に記された語を選択する	82.1												
	(2)	B	男性の育児休業取得率の推移を図から読み取り説明する	62.9											
		C	男女の平均育児休業日数の差を図から読み取り説明する	52.8											
	(3)	地方議会への要望を保障する権利を選択する	83.2												
	(4)	ユニバーサルデザインの考え方を示すものを選択する	93.6												
	(5)	図を基に地方公共団体の歳入の特色を比較して説明する	41.7												
	(6)	地方議会の仕事を説明する	53.9												
	(7)	企業の活動例が示すものを選択する	52.1												
	(8)	非消費支出に該当するものを選択する	36.6												
	(9)	社会保障制度に関わる内容と数値の組み合わせを選択する	75.3												
	(10)	図を基に老年人口比率と国民負担率の特色を説明する	69.1												
	(11)	図を基にマイクロクレジット機関が行うことを答える	15.0												
(12)	持続可能な社会の実現を目指す考え方を説明する	67.5													

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和8年度	令和7年度
90～100	1.3	2.9
80～89	9.1	10.3
70～79	14.3	12.8
60～69	20.5	13.9
50～59	18.8	15.6
40～49	18.5	17.3
30～39	10.4	13.3
20～29	5.3	8.6
10～19	1.8	4.7
0～9	0.0	0.6
計	100.0	100.0
平均点	56.4	53.7
標準偏差	18.0	20.9



3 現状の分析

前年度に比べ、39点以下の層が減少し、平均点は2.7点上昇した。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に一定の成果は見られたが、資料から必要な情報を的確に読み取り、社会的な見方・考え方を働かせて解釈し、適切に表現することに課題がある。

- ① 大問1(3)は、地球的課題に関わる各州の特色を読み取り、習得した知識などを関連付け、選択する問題である（完全正答率 31.1%）。各州の地域的特色について、多面的・多角的に考察することに課題がある。
- ② 大問2(3)は、地域別の発電方式に関わる特色を読み取り、習得した知識などを関連付け、選択する問題である（完全正答率 32.5%）。資料から読み取った情報を、多面的・多角的に考察することに課題がある。
- ③ 大問3(9)は、日露戦争の講和条約に対して国民が不満をもった理由について、複数の資料を基に考察し、説明する問題である（完全正答率 44.2%）。資料から必要な情報を読み取り、習得した知識と関連付けて、根拠に基づき論理的に説明することに課題がある。
- ④ 大問4(11)は、マイクロクレジットの仕組みを示す資料から、マイクロクレジット機関が行うことを答える問題である（完全正答率 15.0%）。資料から必要な情報を的確に読み取り、間接金融について習得した知識と関連付けて答えることに課題がある。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 ・単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりする学習活動を展開する。
 ・資料から必要な情報を読み取り、それらを基に、社会的事象の特色や意味などについて比較や関連付けをしながら考察し、適切に表現する学習活動を展開する。

- ① 地理的分野では、地理に関わる事象を、位置や分布などに着目して捉え、思考・判断したことを説明したり、議論したりする力を養うことが大切である。資料から読み取った情報や習得した知識及び技能を関連付け、地理的事象の特色や意味について多面的・多角的に考察し、表現する学習の充実を図る必要がある。
- ② 歴史的分野では、各時代を大観して、時代ごとの政治や経済、社会の特色について多面的・多角的に考察し、的確に表現する力を養うことが大切である。歴史的事象を時期、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して捉え、事象の意味や意義、事象間の関連、各時代の特色について考察したり、根拠に基づき論理的に説明・議論したりする学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて考察し、表現する力を養うことが大切である。持続可能な社会の形成という観点から、事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを表現したり、事実等に関する知識を相互に関連付けて概念に関する知識を獲得したりする学習の充実を図る必要がある。

数 学

1 小問別の完全正答率と得点率

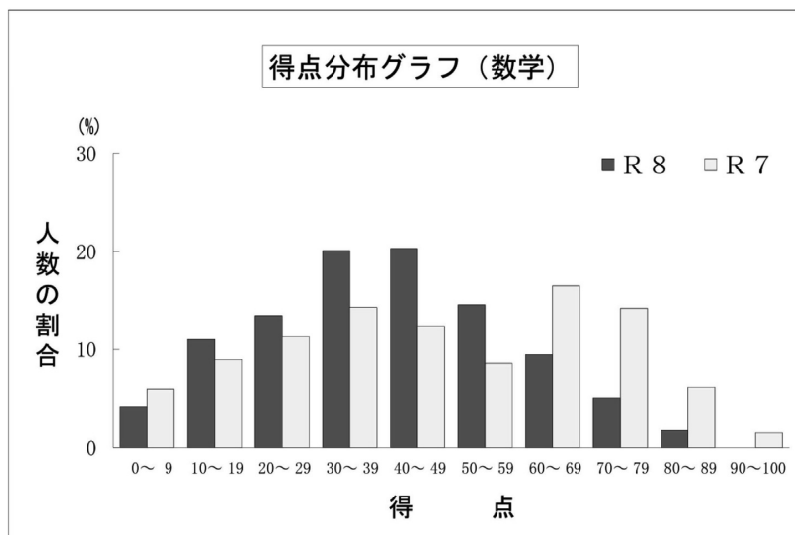
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		選択率 (%)		
				0	100			
1	(1)	正負の数を計算する	83.3		83.3	23.8		
	(2)	1次式を計算する	83.4		83.4	67.8		
	(3)	根号を含む式を計算する	42.7		42.9	89.0		
	(4)	20以下の素数の個数を求める	41.7		41.7	23.8		
	(5)	1次方程式を解く	78.4		78.4	36.9		
	(6)	2次方程式を解く	51.2		51.4	62.9		
	(7)	連立方程式を解く	73.2		73.4	80.6		
	(8)	数の範囲を不等式で表す	47.5		47.5	26.0		
	(9)	式の値を求める	38.1		38.1	52.1		
	(10)	条件を満たす正の整数を求める	47.6		47.6	37.1		
	(11)	角の大きさを求める	70.1		70.1	63.6		
	(12)	角の大きさを求める	29.6		30.2	73.7		
	(13)	半球の表面積を求める	21.2		21.2	82.3		
	(14)	四角形の辺の長さを求める	3.0		3.4	43.7		
	(15)	立方体の切断面の面積を求める	6.0		6.0	36.6		
2	(1)	変化の割合を読み取る	43.7		43.7	79.7		
	(2)	①	三角形の合同を証明する	15.9			37.3	
		②	円周角を求める	21.6			21.6	
	(3)	①	ヒストグラムを読み取る	56.1			66.4	
		②	箱ひげ図を読み取る	59.8			59.8	
(4)	条件を満たす点を作図する	32.0		34.2				
3	(1)	条件を満たす数を求める	78.4		78.4		20.3	
	(2)	①	数の性質について説明する	42.6				62.1
		②	数の性質について説明する	19.6				26.5
	(3)	条件を満たす場合の数を求める	6.4		6.4			
4	(1)	①	条件を満たす確率を求める	82.6			83.1	
		②	条件を満たす確率を求める	36.9			36.9	
	(2)	①	2乗に比例する関数の式を求める	48.1			48.1	
		②	座標平面上の三角形の面積を求める	17.0			17.0	
5	I	①	三角形の相似を証明する	20.8			79.7	
			線分の長さを求める	3.3				
		(2)	図形の面積を求める	0.0	0.0			
	II	①	三角形の相似を証明する	22.8		20.3		
			線分の長さを求める	5.4				
(2)	図形の面積を求める	0.0	0.0					

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。
 ※大問1、5は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

2 得点分布

得点分布表（数学）

年度 段階	令和8年度	令和7年度
90～100	0.0	1.5
80～ 89	1.8	6.2
70～ 79	5.1	14.2
60～ 69	9.5	16.5
50～ 59	14.6	8.6
40～ 49	20.3	12.4
30～ 39	20.1	14.3
20～ 29	13.4	11.3
10～ 19	11.0	9.0
0～ 9	4.2	6.0
計	100.0	100.0
平均点	40.4	47.6
標準偏差	18.7	23.5



3 現状の分析

平均点は昨年度を7.2点下回り、60点以上の得点層の人数が減少した。問題と学習事項との関係を的確に把握し、統一的・発展的に考察することができたかどうか、得点の差となった。

- ① 大問1では、(1)、(2)、(5)、(7)、(11)で得点率が70%以上であり、基礎的・基本的な知識及び技能に関わる学習の成果が見られる。(9)式の値を求めること、(12)円周角の定理を利用して、角の大きさを求めること、(14)直角三角形の辺の比を用いて四角形の辺の長さを求めることなど、数学的な思考力、判断力、表現力等を発揮して解決することに課題が見られる。
- ② 大問2(2)②の得点率は21.6%であり、円周角の定理を用いることに課題が見られる。
- ③ 大問3(1)の得点率は78.4%、(2)①の得点率は62.1%、②の得点率は26.5%であった。また、(3)の得点率は6.4%であった。数の性質について、基本的な場合に規則性を見だし、文字を用いて考察し、処理することに一定の成果が見られるものの、より一般性が増した場合の考察や発展的に考察することに課題が見られる。
- ④ 大問4(1)②の得点率は36.9%であり、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することに課題が見られる。(2)②の得点率は17.0%であり、座標平面上の図形の面積について考察することに課題が見られる。
- ⑤ 大問5では、図形の基本的な性質や定理を根拠として、筋道を立てて証明したり、それを活用して線分の長さや図形の面積を考察したりすることに課題が見られる。

4 授業において取り組むべきこと

- 【ポイント】** 数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力をバランスよく育成する。
- ・数量や図形などについての理解を深めるとともに、数学的な技能の習熟を図る。
 - ・数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。
 - ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考える態度を養う。

- ① 「数と式」の領域では、文字や根号を用いた式の計算や方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問3(2)、(3)のように、具体的な場面において、文字を用いた式を活用して問題解決する活動を重視したい。
- ② 「図形」の領域では、図形の基本的な性質や定理を正しく理解するとともに、それらを活用して問題解決する活動を重視したい。大問1(12)、(14)、(15)のように図形の性質を活用したり、大問5-I II(2)のように条件を用いて論理的に考察したりする活動の充実を図りたい。
- ③ 「関数」の領域では、大問2(1)のように、表、式、グラフを読み取り、考察する活動の充実を図りたい。また、大問4(2)のように、座標平面上の、関数のグラフや図形に関する条件を的確に捉え、問題解決する活動を重視したい。
- ④ 「データの活用」の領域では、ヒストグラムや箱ひげ図から読み取れるデータの分布や傾向について、考察し判断する活動を重視したい。大問2(3)のような問題において、根拠を明らかにして説明し伝え合う活動の充実を図りたい。

理 科

1 小問別の完全正答率と得点率

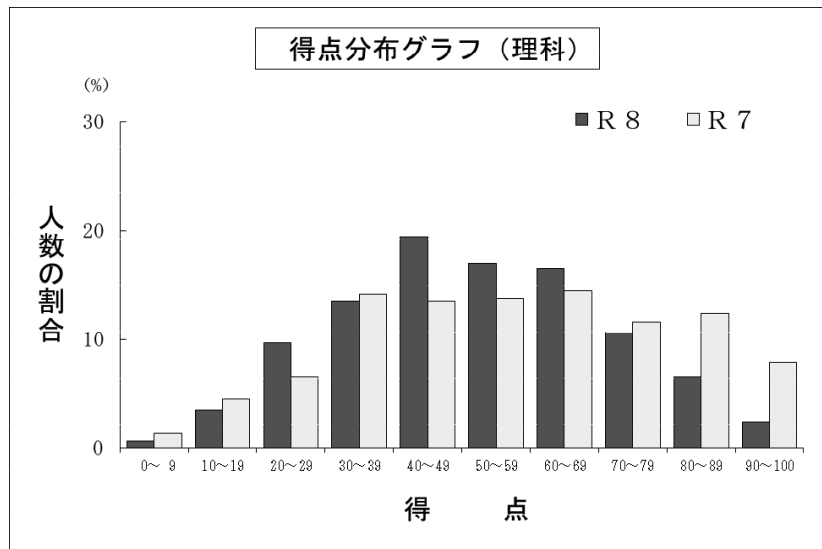
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	正しいルーベの使い方を選択する	46.4												
	(2)	裸子植物の花のつくりを答える	72.4												
	(3)	①	単子葉類の根のつくりを答える	85.0											
		②	根毛の働きについて説明する	85.7											
		③	2つの表を基に双子葉類の特徴の共通点について説明する	53.0											
		④	X	被子植物を答える	73.1										
Y	双子葉類を答える		66.4												
2	(1)	銅が分類されるものを選択する	49.9												
	(2)	ガスバーナーの操作について選択する	64.7												
	(3)	化学変化の前後で質量が保存される理由について説明する	22.5												
	(4)	化学反応式	化学反応式を完成させる	72.2											
		Y	化学変化の前後で変化するものを選択する	70.2											
(5)	反応した銅の質量を求める	6.2													
3	(1)	地球型惑星を選択する	58.7												
	(2)	惑星のまわりを公転している天体を答える	64.0												
	(3)	①	金星の位置を選択する	43.0											
		②	金星の見え方の変化の理由について説明する	42.8											
		③	月の位置を選択する	26.3											
		④	金星の見え方について選択する	41.7											
4	(1)	P	一直線上を一定の速さで進む運動を答える	90.5											
		Q	等速直線運動のグラフを選択する	44.4											
	(2)	斜面上を動く物体に働く力の大きさの関係を 選択する	48.3												
	(3)	X	指定された区間の移動における平均の速さを 求める	17.9											
		Y	指定された区間の移動にかかる時間を求める	25.2											
(4)	2台の台車が同じ時間に進んだ距離が違う理由 について説明する	29.4													
5	(1)	①	外界からの刺激を受けとる器官を答える	78.8											
		②	耳のつくりについて選択する	75.1											
		③	反射が起こるときの信号の経路を図で表す	58.1											
	(2)	①	振幅を選択する	38.2											
		②	実験の操作について選択する	58.9											
(3)	1回の振動にかかる時間を求める	21.4													
6	(1)	①	凝結を表す矢印を選択する	85.4											
		②	固体が液体に変化する温度の名称を答える	59.8											
		③	物質の密度や分子の間隔の大きさの関係について 選択する	39.5											
	(2)	①	風向と風力を答える	74.4											
		②	空気に含まれている水蒸気の質量を求める	13.5											
		③	雲ができるしくみについて説明する	35.3											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表(理科)

年度 段階	令和8年度	令和7年度
90～100	2.4	7.9
80～89	6.6	12.4
70～79	10.6	11.6
60～69	16.6	14.4
50～59	17.0	13.7
40～49	19.4	13.5
30～39	13.5	14.1
20～29	9.7	6.6
10～19	3.5	4.5
0～9	0.7	1.3
計	100.0	100.0
平均点	52.0	56.8
標準偏差	19.4	23.1



3 現状の分析

- ① 今年度の得点分布は、昨年度と比べ、70点以上の割合が12.3ポイント減少し、39点以下の割合が0.9ポイント増加している。
- ② 観点別の完全正答率は、「知識・技能」が64.7%、「思考・判断・表現」が43.0%である。特に「知識・技能」のうち、用語を記述する問題の完全正答率が73.7%であることから、普段の学習において基礎的・基本的な知識及び技能の習得が図られている成果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、生物的領域が69.4%、化学的領域が52.3%、地学的領域が44.4%、物理的領域は41.6%である。
- ④ 大問1(3)③の観察の結果をまとめた2つの表を基に、双子葉類の特徴の共通点を見だし説明する問題では、完全正答率が53.0%である。観察や実験の結果を基に見いだしたことを適切に説明する力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問4(4)の実験の結果と資料を基に、2台の台車が同じ時間に進んだ距離が違う理由を説明する問題では、完全正答率が29.4%である。探究の過程を振り返り、実験の方法が適切だったのかを検討し、改善する力が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと











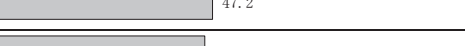
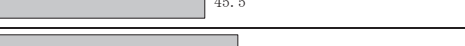

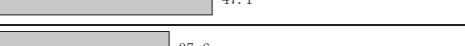
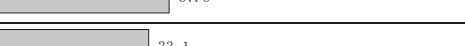

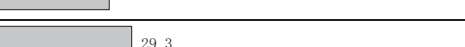

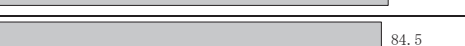
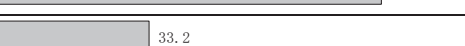


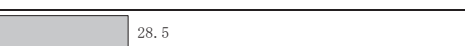
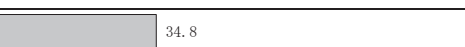
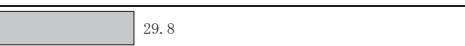






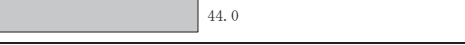
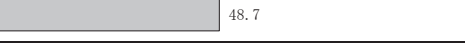
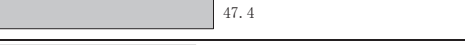
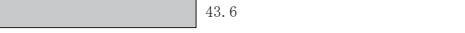

【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・観察、実験の結果を分析して解釈する学習活動の充実を図る。
- ・実験の方法を検討して改善する学習活動の充実を図る。

- ① 大問1(3)③のように、結果を分析して解釈することができるようにするためには、観察、実験の結果や、調べたことを図や表にまとめたあと、生徒が複数の結果や資料を比較したり関連付けたりして考え、関係性や規則性を見いだすことができるように促す必要がある。その際、共通性・多様性の視点などの理科の見方・考え方を働かせ、考察した内容が科学的に妥当かどうかを検討できるようにすることが大切である。
- ② 大問4(4)のように、実験の方法を検討し、改善できるようにするためには、計画した観察、実験の方法が予想を確かめられるものになっているかを検討したり、実験の結果を基に方法が適切だったのかを再検討したりして改善することができるように促す必要がある。特に中学校第3学年では探究の過程を振り返る活動などに重点を置き、指導することが大切である。

英 語

1 小問別の完全正答率と得点率

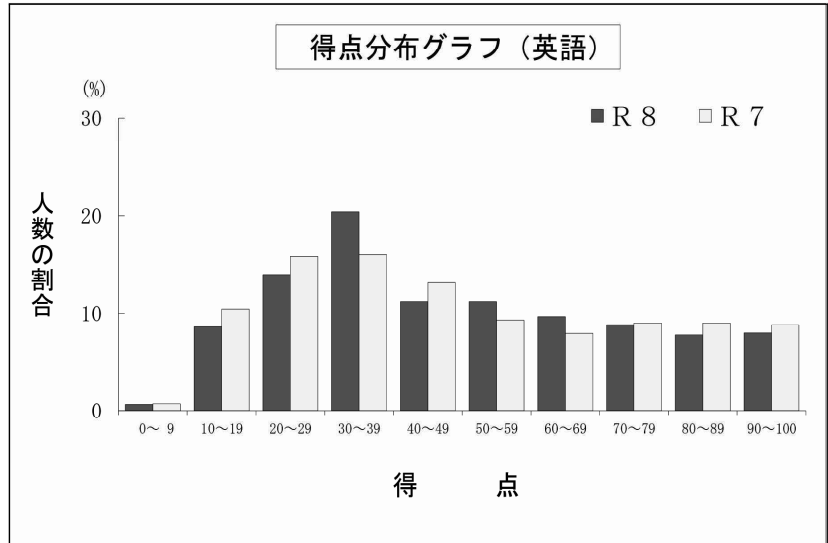
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)	
				0	100
1	(1)	① 短い会話を聞いて、要点を捉える	73.4		
		② 短い会話を聞いて、要点を捉える	91.4		
	(2)	① 会話を聞いて、適切に回答する	77.0		
		② 会話を聞いて、適切に回答する	70.6		
		③ 会話を聞いて、適切に回答する	82.4		
	(3)	① まとまりのある会話を聞いて、要点を捉える	49.1		
		② まとまりのある会話を聞いて、要点を捉える	82.6		
	(4)	① 日常的話題について、要点を捉える	61.6		
		② 日常的話題について、要点を捉える	72.7		
③ 日常的話題について、概要を捉える		74.2			
2	(1)	① 文脈に応じて、語形を変化させる (例) 過去形 took	47.2		
		② 文脈に応じて、語形を変化させる (例) 最上級 biggest	45.5		
		③ 文脈に応じて、語形を変化させる (例) 動名詞 walking	52.8		
	(2)	① 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる (例) How long have	45.5		
		② 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる (例) looking forward to	36.9		
		③ 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる (例) are going to	28.8		
3	(1)	① 条件に合う単語を書く (例) visit	23.4		
		② 条件に合う単語を書く (例) buy	29.2		
		③ 条件に合うイラストを選ぶ	86.1		
		④ 条件に合うイラストを選ぶ	84.5		
	(2)	条件に応じて、英語で意見を書く	21.9		
4	(1)	① 内容を正確に読み取り、適語を書く	35.8		
		② 内容を正確に読み取り、質問に適切に答える	43.3		
		③ 文脈から判断し、空所に適語を補充する	27.3		
		④ 文脈から判断し、英文を適所に補充する	34.8		
	(2)	話題について、理由とともに自分の考えを書く	5.2		
5	(1)	文脈から判断し、空所に適切な語句を補充する	38.2		
	(2)	内容を正確に読み取り、要点を捉える	56.9		
	(3)	文脈から単語の意味を推測する	71.5		
	(4)	内容を正確に読み取り、要点を捉える	18.0		
	(5)	ア 内容を正確に読み取り、要点を捉える	50.2		
		オ 内容を正確に読み取り、要点を捉える	50.2		
	(6)	① 文章の概要を読み取り、本文の要点を捉える	44.0		
		② 文章の概要を読み取り、本文の要点を捉える	48.7		
		③ 文章の概要を読み取り、本文の要点を捉える	47.4		
		④ 文章の概要を読み取り、本文の要点を捉える	43.6		

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	令和8年度	令和7年度
90～100	7.9	8.8
80～89	7.7	9.0
70～79	8.8	9.0
60～69	9.7	7.9
50～59	11.2	9.3
40～49	11.2	13.1
30～39	20.4	16.0
20～29	13.9	15.8
10～19	8.6	10.4
0～9	0.6	0.7
計	100.0	100.0
平均点	50.0	49.8
標準偏差	24.3	25.4



3 現状の分析

平均点は50.0点であった。大問1のリスニングの得点率が、昨年度から17.0%上昇した。日頃の聞くことや話すことの指導の成果が大きく表れていると言える。一方で、大問3では、自分の住んでいる地域を想定して考えを表現することに、大問4では、会話文とグラフの情報から適切な語を導き出すことに、それぞれ課題が見られた。これらの課題を踏まえ、自分の意見や考えを正確に相手に伝えることができること目指し、コミュニケーションを行う目的等を意識した言語活動を繰り返し行う中で、生徒が知識及び技能を活用する場面を多く設定し、定着につなげることが求められる。

- ① 大問1全体の完全正答率は73.5%であったが、まとまりのある会話を聞いて要点を正確に捉えることには改善の余地がある。「聞くこと」の指導においては、生徒の理解の状況を適切に見取るとともに、聞き取るポイントを与えるなどの工夫が必要である。
- ② 大問2では、基本的な文法事項を正しく活用する問題の得点率が43.0%と低く、文法事項、文構造や言語の働き等の知識を理解した上で、文を構成することに課題が見られる。文脈に応じた言語使用について、生徒の自発的な気付きを促す指導が求められる。
- ③ 大問3では、スライドを用いて発表した英文を完成させる(1)①②の平均得点率が26.9%と低かった。目的や場面、状況等に応じて必要な情報等を捉え、適切に相手に伝える場面を設定するなど、言語活動を行う中で、生徒の思考力、判断力、表現力等を高める指導が求められる。
- ④ 大問4では、文脈から判断し、与えられた英文を会話文の適切な箇所に挿入する(1)④の得点率が34.8%と低かった。ペア・ワークやグループ・ワークを通じた言語活動を充実させるとともに、複数の話し手の発言内容を整理しながら読み取る力を育成する指導が必要である。
- ⑤ 大問5では、内容を正確に読み取り、要点を捉えて説明する(4)の得点率が29.8%、文章の概要を読み取り、本文の要点を捉える(6)の得点率が45.9%と低かった。読み取った内容について、質問し合ったり、自分の意見や考えを伝え合ったり、書いたりする複数の領域を統合させた言語活動の充実が求められる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 ・言語活動を通して、正しく語彙と文法事項を活用し、知識及び技能の定着を図る。
 ・生徒が目的等に応じて知識及び技能を活用し、思考・判断・表現する多様な場面を設定する。

- ① 言語材料と言語活動を効果的に関連付け、ペア・ワークやグループ・ワークの中で、生徒が基本的な語彙や表現、文法等を繰り返し活用することで習得することを促していくことが重要である。
- ② 具体的な目的や場面、状況等に応じて、生徒が実際のコミュニケーションにおいて既習の語彙や表現、文法等を活用することが重要である。生徒が思考・判断・表現することにより、意見や考えを広げ、深めることができるよう、多様な言語活動の充実を一層図っていくことが求められる。

授業改善へ向けての課題と提言

〈国 語〉

複数の場面を結び付け、登場人物の心情や話の展開についての読みを深め、文学的な文章を読み味わう学習の充実

大問四 4 (3)は、登場人物の心情や話の展開について考える設問である。複数の場面を結び付け、本文中の比喩的な表現や会話文中の言葉を手掛かりにしながら、登場人物の心情や言動の意味について解釈し、適切に表現することが求められる。

日常の指導では、作品全体を俯瞰して複数の場面や描写を結び付けたり、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写に着目したりするなどして、場面や描写に新たな意味付けを行うことを大切にしたい。また、本文の叙述を根拠として自分の解釈をまとめる活動や、互いの解釈を交流する活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしながら文章を深く読み味わうような授業づくりを心掛けたい。

現代語訳や資料を手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を捉え、古典に親しむ学習の充実

大問五 3 (2)は、現代語訳や資料、会話文など複数の情報を活用し、漢詩の語句に託された作者の心情を推察する設問である。現代語訳や語句の意味の理解を基に、古典に表れたものの見方や考え方を捉え、読み取った内容を自分の言葉で表現する力が求められる。

古典の指導においては、現代語訳や時代背景を補足する解説資料などを効果的に活用し、古典を読み味わうとともに、生徒たちが古典の世界に親しみをもてるような授業づくりを心掛けたい。その際、登場人物の言動や作者の心の動きに着目し、現代と共通する思いや異なる点について伝え合う活動を設定するなどして、生徒が古典の世界に積極的に関わり、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしたい。

学力検査問題から

大問四

4 次は、本文について、テーマを選んで読み取ったことを、学級全体で共有するためにスライドにまとめ、話し合っている生徒A、B、C、Dの会話である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

C
うん。これまでの真は、生まれた時から近くにあった領域に「c」という気持ちに変化していくことが読み取れそうだね。

(スライド、会話部分一部省略)

(3) 「c」に適する内容を、三十字以内で書きなさい。

(正答例)

踏み込むことをためらっていたが、前向きに取り組んでみよう

(完全正答率) 18.8% (得点率) 29.3%

大問五

3 次は、【I】【II】について話し合っている生徒A、B、Cの会話である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

A B
【王安石について】を読むと、作者が、政治改革に取り組む中で、苦労したことが書かれているね。
そうだね。承句の「凌寒」「獨自開」には、「c」という作者の心境が託されていることが読み取れそうだよ。

(会話部分一部省略)

(2) 「c」に適する内容を、二十五字以内で書きなさい。

(正答例)

周囲に反対されても孤独に耐え、信念をもって生きる

(完全正答率) 10.2% (得点率) 24.3%

〈社 会〉

複数の資料を関連付けて、多面的・多角的に考察したり、地図を有効に活用して諸事象を説明したりする活動の充実

大問2(5)は、我が国における製鉄所と石油化学コンビナートの所在地の特色を、主な資源の国内生産量と輸入量、国際貨物輸送量を示した2つの資料から読み取り、それらを関連付けて説明する問題である。指導に当たっては、複数の資料から有用な情報を読み取り、比較、関連付けて多面的・多角的に考察したり、地図を有効に活用して諸事象を説明したりするなどの活動を充実させることが大切である。

諸資料を活用し、事象の意味や意義、特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、論理的に説明する活動の充実

歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解することが求められる。指導に当たっては、歴史的な見方・考え方を働かせ、諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を培うとともに、事象の意味や意義、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、根拠に基づき論理的に説明したり、議論したりする活動を充実させることが大切である。

習得した知識や技能を活用して、資料から現代の社会的事象に関する情報を読み取り、表現する活動の充実

大問4(2)は、秋田県における男女の平均育児休業日数の差を図から読み取り説明する問題である。指導に当たっては、具体的な事例を取り上げ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する活動を充実させることが大切である。

学力検査問題から

大問2(5)

図4は、製鉄所と石油化学コンビナートの主な所在地を示したものである。それぞれが位置する場所に共通する特色を、図4と表2、図5から読みとれることを関連づけて書きなさい。

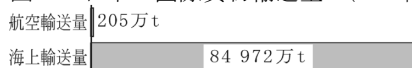
図4 主な所在地(2022年)



表2 日本の国内生産量と輸入量の割合(2022年)

項目	主な資源	石炭 (%)	鉄鉱石 (%)	原油 (%)
国内生産量		0.4	0	0.3
輸入量		99.6	100	99.7

図5 日本の国際貨物輸送量* (2022年)



*輸出量と輸入量の合計

(図4、表2、図5は「日本国勢図会2024/25年版」などから作成)

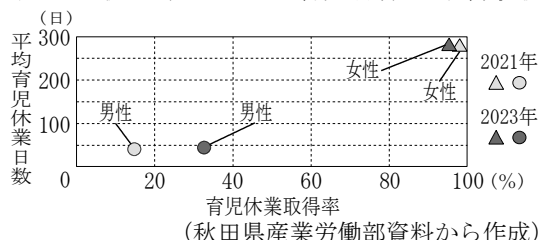
(正答例) 主な資源のほとんどを船で輸入しているため、輸送に便利な臨海部に位置している。
(完全正答率) 46.4% (得点率) 68.8%

大問4(2)

図1に入る適切な内容を、図1から読み取り書きなさい。

◇2023年の図1のBは、2021年と比べて約2倍に増えた。一方、2023年の図1のCは、5倍以上の差があることから、仕事と子育てを両立しやすい環境整備が必要である。

図1 秋田県における育児休業の取得状況



(正答例) 男女の平均育児休業日数
(完全正答率) 52.8% (得点率) 54.0%

〈数 学〉

学力検査問題から

関数の変化の割合を、表、式、グラフの特徴と関連付けて理解を深める場面の設定

大問2(1)は、学習した関数を、表、式、グラフで表したものの中から、変化の割合がつねに-2となるものを選ぶ問題である。

完全正答率が43.7%であった。関数における変化の割合を表、式、グラフの特徴と関連付けて理解することが不十分であることが考えられる。

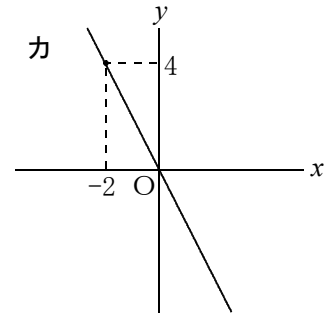
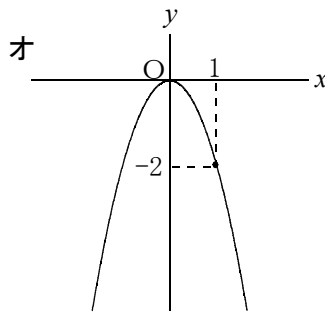
授業では、各学年の関数の学習において、様々な範囲で変化の割合を求め、特徴を見いだす活動を充実させたい。そして、その特徴からグラフの形はどうなるのかを考察する場面を設定することで、変化の割合がつねに一定であればグラフが直線になることなど、変化の割合とグラフの特徴の関係について理解を深めたい。その際、既習の関数の特徴と比較して考えさせることで、生徒の統合的・発展的に考える力が高まることが期待できる。また、変化の割合を表、式、グラフから読み取り、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を取り入れることも有効である。

大問2(1)

次のア～カは、 y が x の関数であり、 x と y の関係を、アは表で、イ～エは式で、オ、カはグラフで表したものである。この中から、変化の割合がつねに-2となるものを2つ選んで記号を書きなさい。ただし、オは放物線、カは直線である。

ア	x	…	-1	0	1	2	…
	y	…	-4	-2	0	2	…

イ $y = -\frac{2}{x}$ ウ $y = 2x - 2$ エ $y = -2x + 4$



(正 答) エ, カ
(完全正答率) 43.7%

生徒自らが見通しをもって作図に取り組み、作図から図形の性質を考察する活動の充実

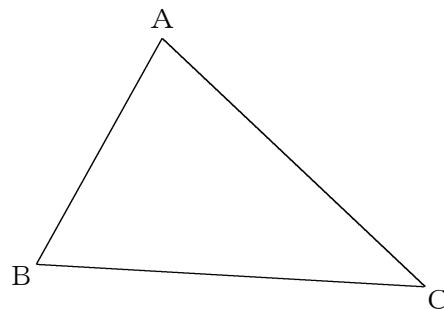
大問2(4)は、辺BC上にあり、2辺AB、ACから等距離にある点が∠Aの二等分線上にあることを用いて、条件を満たす点を作図する問題である。

完全正答率は32.0%であった。角の二等分線の作図方法は知っているが、角を構成する2辺から等距離にある点が角の二等分線上にあるという性質の理解が不十分であることが考えられる。また、不必要な線をかいている解答が多く見られたことから、見通しをもって作図することに課題がある。

授業では、図形の対称性などに着目して生徒自らが作図の方法を見いだし、見通しをもって作図に取り組む活動を取り入れたい。また、角の二等分線、垂線、垂直二等分線の作図を単なる操作に終始させることなく、それらの線にはどのような性質があるのかを、作図方法等を振り返りながら考察する活動を充実させることで、作図を様々な問題で活用する力を高めたい。

大問2(4)

次の図のように、△ABCがある。辺BC上に、辺ABまでの距離と辺ACまでの距離が等しくなる点Pを、定規とコンパスを用いて作図しなさい。ただし、作図に用いた線は消さないこと。



(正 答) 省略
(完全正答率) 32.0% (得点率) 34.2%

〈理科〉

観察、実験の結果を分析して 解釈する学習活動の充実

大問1(3)③は、観察の結果をまとめた2つの表を基に、双子葉類の特徴の共通点を見だし説明する問題である。

生徒のつまずきの要因としては、複数の結果や資料を比較したり関連付けたりする思考、判断が不十分であることが考えられる。

授業においては、観察、実験や調べたことなどの複数の結果を分析して解釈する活動を通して、生徒が関係性や規則性を見いだすことができるように促す必要がある。その際、理科の見方・考え方を働かせ、考察した内容が科学的に妥当かどうかを検討する学習活動の充実を図ることが大切である。

実験の方法を検討して改善する 学習活動の充実

大問4(4)は、実験の結果と資料を基に、2台の台車が同じ時間に進んだ距離が違う理由を説明する問題である。

生徒のつまずきの要因としては、予想や仮説と一致しない結果となった要因を見だし、表現することに課題があると考えられる。

授業においては、探究の過程を振り返る場面を設定する必要がある。その際、実験の結果を基に、方法が適切だったのかを振り返り、それらを見直し、再検討を加えて改善する学習活動の充実を図ることが大切である。

学力検査問題から

大問1(3)③

(3)表1は、結さんの観察カードの一部である。結さんと守さんは、表1をもとに、次のように話し合った。また、表2は、守さんのアサガオの記録を整理したものである。

守さん：私の家では、窓の遮光用にアサガオを育てます。アサガオはどちらの植物のグループに分類できるのかな。

③下線部について、表1と表2をもとに2人がまとめた次の考えが正しくなるように、Sには「スズメノカタビラ」か「タンポポ」のいずれかを、Tにはあてはまる内容を、それぞれ書きなさい。

アサガオと(S)は、根のようすが似ていることのほかに、Tという共通する特徴があるので、同じグループに分類できると考えられる。

(正答例) S：タンポポ T：葉脈が網の目状に広がっている
(完全正答率) 53.0%

(主な誤答例) T：子葉が2枚ある 花弁がつながっている

表1







	スズメノカタビラ	タンポポ
スケッチ		
葉脈のようす	平行に並んでいた	網の目状に広がっていた
根のようす	根もとから多数の細い根が出ていた	太い根から細い根が出ていた

表2

発芽前の種子	発芽したときの根	子葉	子葉と葉
			
種子	根毛		子葉

大問4(4)

【実験Ⅳ】台車Sと台車Tの前面をAに合わせて並べ、同時に静かに手をはなし、タブレット端末で真上から撮影した。撮影した動画を確認したところ、台車Sと台車TはBを同時に通過し、その後、Cも同時に通過していた。

図3

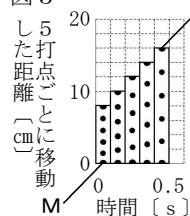
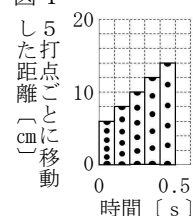


図4



(4)図6は雪さんが調べた資料の一部である。雪さんは、実験Ⅳの結果から、資料を確認したあとで、図3と図4を見直し、実験を振り返った。図3と図4では、それぞれの台車がAを通過してから同じ時間に進んだ距離が違うのはなぜか、「台車Tをはなした位置が、」に続けて書きなさい。

図6

摩擦や空気抵抗がない場合、物体の速さが変化する割合は物体の質量によらない。

(正答例) 台車Tをはなした位置が、台車Sをはなした位置よりも低かったから

(完全正答率) 29.4%

(主な誤答例) 違っていたから

台車Sよりも高かったから

同じだが、台車Tの方が質量が大きかったから

〈英 語〉

日常的な話題について、既習の言語材料を適切に活用できる力を養う指導の充実

大問2(1)は、まとまりのある文章において、基本的な文法事項を正しく用いて文を構成する問題であるが、完全正答率は48.5%であった。

授業においては、言語活動を通して英語使用の正確さを高めていくことが必要である。その際、多くの生徒に共通する誤りを全体で共有し、正しい用法を再確認するなどの活動を通して、生徒が自発的に誤りに気付き修正できるよう指導することが大切である。さらに、複数の領域を効果的に関連付けた言語活動を継続して行うことで、基本的な知識・技能の定着を図りたい。

既習の言語材料を活用し、生徒自身が思考・判断して表現する力を養う指導の充実

大問3(1)は、テーマについて、絵や発表内容を基に、英文やスライドを完成させる問題である。特に、適切な表現を判断して答える設問の完全正答率が低く、既習事項を用いて、文脈に沿って適切に表現する力に課題が見られる。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、適切な表現を用いて自分の考え等を伝えるために、生徒が自身の言語使用について、内容面と言語面の両面から振り返る活動を充実させる必要がある。その際、中間指導においての教師のフィードバックを基に、生徒が内容や表現を修正する場面を設定するなど、学習過程の改善と充実を図りたい。

日常的・社会的な話題について、自分の意見や考えを理由とともに表現する力を養う指導の充実

大問4(2)は総合的な学習の時間における調査結果に関する会話文を読み、校外学習について自分の考えを理由とともに表現する問題である。完全正答率が低いことに加え、無回答率が23.6%と高く、まとまった英文を書くことに課題が見られる。

授業においては、特定のテーマについて、自分の考えを理由とともに表現する活動を充実させる必要がある。さらに、地域や社会に関する幅広い話題を扱い、英語で説明したり発表したりするなどの言語活動を取り入れることで、即興的に英語で表現する力の育成を図りたい。

学力検査問題から

大問2(1)

見つけた誤りを、(例)にならって英語1語で抜き出し、それぞれを適切な形の英語1語に直しなさい。(一部抜粋)

<英文(一部抜粋)>

It was the big of all the parks in the city.

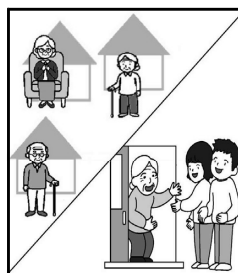
(正 答) 誤 big 正 biggest

(完全正答率) 45.5%

大問3(1)①

それぞれの内容から考えて、雅人の発表の①と②に入る適切な英語をそれぞれ1語で書きなさい。(一部抜粋)

<英文とスライド(一部抜粋)>



If we (①) their houses, they will feel happy to see and talk with us.

(正 答 例) visit

(完全正答率) 23.4%

(得 点 率) 24.4%

大問4(2)

<英文(一部抜粋)>

Ms. Hill: You all are wonderful! You learned a lot from researching outside the classroom.

下線部について、あなたはどうか考えますか。あなたの考えを、理由とともに25語以上の英語で書きなさい。ただし、記号や符号(, . ? ! など)は語数に含めない。

(正 答 例) I think it is very helpful because we can see real things and talk with people around us. This will help me understand our society and create new ideas.

(完全正答率) 5.2% (得点率) 29.8%